

Necydalis 属の研究史(Ⅱ)

草間 慶 一†

(静岡大学理学部)

5. *Necydalis* と *Molorchus* についての論争
前項までに述べたように、翅鞘の狭くなった種の方は *Stenopterus* に入れることが一般に受け入れられたが、翅鞘の短縮された種の方では主にイギリスとフランスの昆虫学者の間で論争が続いた。

1853 および 55 年に WHITE が大英博物館のカミキリのカatalogをまとめた時、彼は NEWMAN の意見を全面的に採用した。WHITE のカatalog中から属とそのシノニム、およびその属に含まれている種を第4表に示した¹⁶⁾。

1859年、スエーデンの C. G. THOMSON¹⁷⁾ [J. THOMSON とは別の人であるが、しばしば混同されている]* は、NEWMAN や WHITE に近い考え方であるが、LINNÉ の1758年の *Necydalis* に入っていた *major* と *minor* のうち、*major* を *Necydalis* に含ませ、*minor* の方は新属 *Caenoptera* を作り**これに移し、この属のタイプ種に指定した。*Molorchus* には FABRICIUS が1792年にこの属を作った時に入っていた *umbellatarum* をあててこの属名も残した。すなわち次のようである。

Necydalis major

Molorchus umbellatarum

Caenoptera minor

1866年¹⁷⁾には彼は *Caenoptera* を *Molorchus* の亜属とし**

Molorchus (s. str.) *umbellatarum*

Molorchus (*Caenoptera*) *minor*

としている。

フランスにおいては、WHITE のように *Molorchus* を廃したり、C. G. THOMSON のように新属を設立して *minor* をそれに移すような分類法には反対で、J. THO-

第4表 WHITE (1855) の分類¹⁶⁾

番号, 属名	110 <i>Heliomanes</i> NEWMAN
シノニム	<i>Necydalis</i> (一部) LINN. ¹⁸⁾ <i>Gymnopteron</i> (一部) SCHRANK
種名	1. <i>Sidus</i> NEWMAN, オーストラリア 2. <i>umbellatarum</i> LINN., ヨーロッパ 3. <i>insularis</i> 新種, 支那(香港) 4. <i>bimaculatus</i> SAY, 北アメリカ
産地	5. <i>Corni</i> LÉCONTE, 合衆国(アラバマ, カロライナ) 6. <i>minor</i> LINN., ヨーロッパ 7. <i>Indicus</i> HOPE, 北インド 8. <i>nigriceps</i> 新種, 東インド(Moulmein)
番号, 属名	112 ^{b)} <i>Necydalis</i> LINN.
シノニム	<i>Molorchus</i> (一部) FABR. ¹⁹⁾ <i>Gymnopteron</i> (一部) SCHRANK
種名	1. <i>major</i> LINN., ヨーロッパ 2. <i>ulmi</i> CHEVR., ヨーロッパ ^{d)} 3. <i>melanopterus</i> DEJ., ブラジル ^{e)}
産地	4. <i>auricomus</i> NEWMAN, オーストラリア 5. ? <i>depressus</i> MOTCHULSKY, ^{f)} コーカサス, ウラル山脈 6. <i>mellitus</i> SAY, 北アメリカ(合衆国)

a) 117番, *Stenopterus* ILLIGER のシノニムの所にも, *Necydalis* (一部) LINN. とある。

b) 111番, *Glaphyra* NEWMAN は現在は *Molorchus* のシノニム。この属の唯一の種の *semiusta* NEWMAN は, *M. bimaculatus* の亜種になっている。

c) 115番, *Hesthesis* NEWMAN のシノニムの所にも, *Molorchus* (一部) FAB. とある。

d) 2種をはっきり区別しているのではなく, *major* の方にも現在 *ulmi* のシノニムとされている種が3つ入っている。

e) 現在の何に当るか未調査であるが, *Necydalis* ではない。

f) *Molorchus umbellatarum* のシノニム。

† KUSAMA, Keiichi: Historical Review of *Necydalis* (Cerambycidae) (Ⅱ)

* []中は筆者の註。

**原著を見ていないので, *Caenoptera* が新属で書かれたか, 新亜属か不明。引用した文献を見ると両者がある。一応前号第2表の「亜属として記載」は取り消しておきたい。

MSONは1860年の彼の著書中では次のように取り扱っている¹⁹⁾。

245. *G. Necydalis* L.
(WHITE カタログ, p. 181. 6種)
246. *G. Molorchus* FAB.
シノニム *Heliomanes* NEWMAN
Gymnopterion SCHRANK
タイプ種: *M. minor* L. (*Necydalis*)
MULSANT氏を手本として私 [= J. THOMSON] もこの種が、この属のタイプ種と考える。

と述べ、*Molorchus* のタイプ種に *minor* を指定し、さらに1864年¹⁹⁾には *Necydalis* のタイプ種として *N. major* を指定した。

MULSANT も1862年の彼の“フランスのカミキリ”の第2版で²⁰⁾、*Molorchus* (s. str.) に *minor* を入れ、新亜属 *Linomius* を作り、これに *umbellatarum* 1種のみを含ませた。この J. THOMSON-MULSANT 方式が今まで日本で用いられてきた分類法である。

FAIRMAIRE も同じような考え方で、1864年の彼の“ヨーロッパの甲虫”中において²¹⁾、*Molorchus* に *minor* を指定している。その他もほぼ MULSANT に同じであるが、異なる点としては *Conchopterus* なる新属を作り、これに *umbellatarum* 1種を入れたことである。

一方イギリスにおいては、1834年の CURTIS²²⁾ および WESTWOOD (1840年)²³⁾ は、両者とも *Necydalis* のタイプ種は *minor* であると指定しており、この考え方を受けついで PASCOE は1867年²⁴⁾ に、フランス流の分類法に反対し、次のように主張している。

「*Molorchus* は FABRICIUS により *N. major* L. に対して創立された属である。*Necydalis* の名前は最初 LINNAEUS により彼の“*Iter Oelandicus*” *中で、*N. minor* に対して用いられた。しかし“*Systema Naturae*” の第12版中で [第10版の間違いと思う。*Zoological Record* 4: 291 (1867) にもその指摘あり]** 初めてその特長がはっきり述べられている。そしてその時は、*N. major* が先に置かれている。それゆえ、もし、属の第1番目の種をタイプ種として取るならば、1つの種に2つの属名が与えられることになる [*Molorchus*

major と *Necydalis major*]。しかしこの属の第1番目の種をその属のタイプ種とする、という法則をリンネの種に常に適用するのは間違いであり、また通常このことは行われていない。例えば、いわゆる彼の *Leptura* のタイプは今では *Donacia* であり、*Cerambyx* は *Acrocinus* である [*Leptura* および *Cerambyx* の属の1番最初に書かれている *aquatica* と *longimanus* のことで、前者はハムシ科のネクタイハムシの1種、後者は南米のテナガカミキリである]。その他 *Scarabacus*, *Cantharis*, *Tenebrio*, *Carabus*, *Elater* などでも第1番目の種は別の新しい属名が付けられている。さて *Necydalis* についてリンネの記述した特長は非常にあいまいなもので、“*Antenna setacea. Elytra alis minora, brevioribus angustior. Cauda simplex*”。最初の記述はおそらくハサミムシとの区別のつもりであったと思われる。

一方、FABRICIUS の *Molorchus* の記載は明らかに第1番目の種である *M. major* のみから取られており、これは Ent. Syst.⁹⁾ 中の彼の法則 [属の第1番目の種をタイプ種とする] に従っている。もし FABRICIUS が *N. minor* をタイプ種として取ったのなら、彼は“*Antennae thorace longioribus*” [触角は前胸よりも長い] とは書かなかっただろう。なぜならば、*minor* では触角は体長の2倍もあるから。リンネの属の定義はどの種にも当てはまるが、事実彼の種の大部分は異質のものである。FABRICIUS の記載はぴったりと *major* には適用されるが、*minor* には適用されない。それゆえ私 [PASCOE] は、*Molorchus* のタイプ種に *major* を当てるべきで、*Necydalis* には最初にこの名前を与えられた *minor* に対して用いるべきであると思う。

以上のように理路整然と、*Necydalis* と *Molorchus* のタイプ種はフランスで言っているのとはちょうど逆であると述べている。

この主張に対して、フランスの LACORDAIRE²⁵⁾ は1869年、彼の大著“*Genera des coleoptères*” の477頁の脚註において、

「*Necydalis* と *Molorchus* の名前は説明を必要とする。一番最初の *Necydalis* の記載は、1735年に出版された“*Systema Naturae*” の第1版中で、この本は非常に稀なものであるが、この中では何ら種の指示はない。その後リンネはカミキリモドキ科とジョウカイ科の後に置き、*N. minor* と *umbellatarum*、次いで *major* を追加した [*umbellatarum* については、現在は SCHREIBER となっている]。

* LINNÉ がいつ書いた著書か未調査。しかし“*Fauna Suecica*” の第1版⁶⁾ (1746年) でも、*Necydalis* には *minor* しか含まれていないとのこと。

** [] 中は筆者の註。

1792年、FABRICIUSはこの3種をもって *Molorchus* 属を作り〔本当は4種、前号参照〕、*Necydalis* なる名前はカミキリモドキなどに用いた。

長い間このように考えられていたが、MULSANT (1839年)がこれら2属を区別した最初であり、*Necydalis* に *major* を、*Molorchus* には他の2種を当てた。後者〔*minor*〕が原記載の中で *Necydalis* について述べた性質に適合する唯一の種であり、もしその事がより価値のある事ならば、PASCOE の意見のように逆になると私〔LACORDAIRE〕は思う。さもなくば *Molorchus* を廃棄してNEWMANによって *minor* と *umbellatarum* をもって設立された *Heliomanes* を採用しなければならない。しかしながら少なくともフランスにおいては、最近の著書の中ではMULSANTの意見を用いた。命名法をこれ以上混乱させないために一致させる義務があると私は思う。』

と述べて、*Necydalis* L. に *abbreviatus* PANZER, *major* L., *mellitus* SAY の3種を入れ、*Molorchus* FAB. に *minor* L. を、*Conchopterus* FAIREMAIRE に *umbellatarum* を入れている。

このフランス流の *Necydalis* のタイプ種を *major* とする考え方が、その後ドイツでもGANGLBAUER (1882年)²⁶⁾、REITTER (1912年)²⁷⁾、オランダ人のAURIVILLIUS (1912)²⁸⁾、ロシアのPLAVILSTSHIKOV (1936)²⁹⁾ などでも採用され、現在に至っている。

6. *Necydalis* と *Molorchus*

の今までの分類法

以上歴史的に述べてきた分類法をまとめてみると、

〔Ⅰ〕 *N. minor* を *Necydalis* 属とする。

- { *Necydalis minor*
- { *Molorchus major*
- CURTIS (1834)
- WESTWOOD (1840)
- PASCOE (1867)

〔Ⅱ〕 *N. major* を *Necydalis* 属とする。

(i) *Molorchus* を認め、*minor* をこの属の代表的な種とする (以下の亜属などを認めない人 *印、も少なくない)

- { *Necydalis major*
- { *Molorchus minor*
- { *Molorchus*, *M. (Linomius)* または *Conchopterus umbellatarum*
- MULSANT (1839, 1862)
- THOMSON, J.* (1860, 1864)

- FAIREMAIRE (1864)
- LACORDAIRE (1869)
- AURIVILLIUS* (1912)
- MITONO (1940)³⁰⁾
- GRESSITT (1951)³¹⁾
- LINSLEY* (1963)

(ii) *Molorchus* は認めるが、*minor* をこの属の代表的な種とは認めない。

- { *Necydalis major*
- { *Caenoptera* または *Molorchus (Caenoptera) minor*
- Molorchus umbellatarum*
- THOMSON, C.G. (1859, 1866)
- PLAVILSTSHIKOV (1936, 1940²⁹⁾, 1948²⁹⁾)

(iii) *Molorchus* を認めず、*Necydalis* のシノニムとし、*Molorchus* の代りに別属を作る。

- { *Necydalis major*
- { *Heliomanes minor*, *H. umbellatarum*
- NEWMAN (1840)
- WHITE (1855)
- { *Necydalis major*
- { *Caenoptera minor*, *C. umbellatarum*
- REITTER (1912)
- PICARD (1924)³³⁾

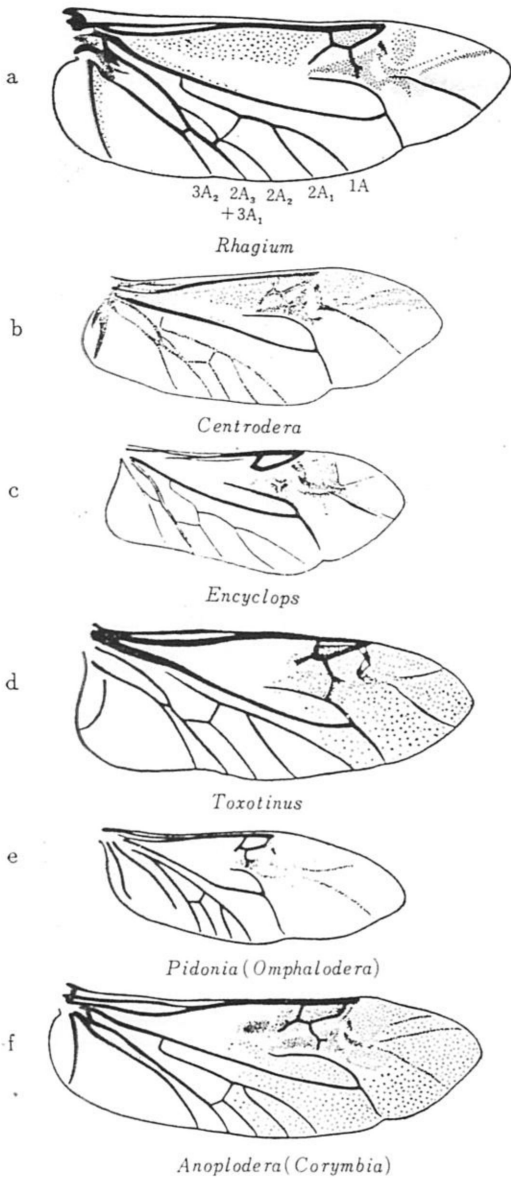
以上の4つの様式に大別できる。筆者の意見とその理由は後で述べるとして、19~20世紀における別の問題について触れてみる。

第5表 J. THOMSON (1860) の *Necydalini*

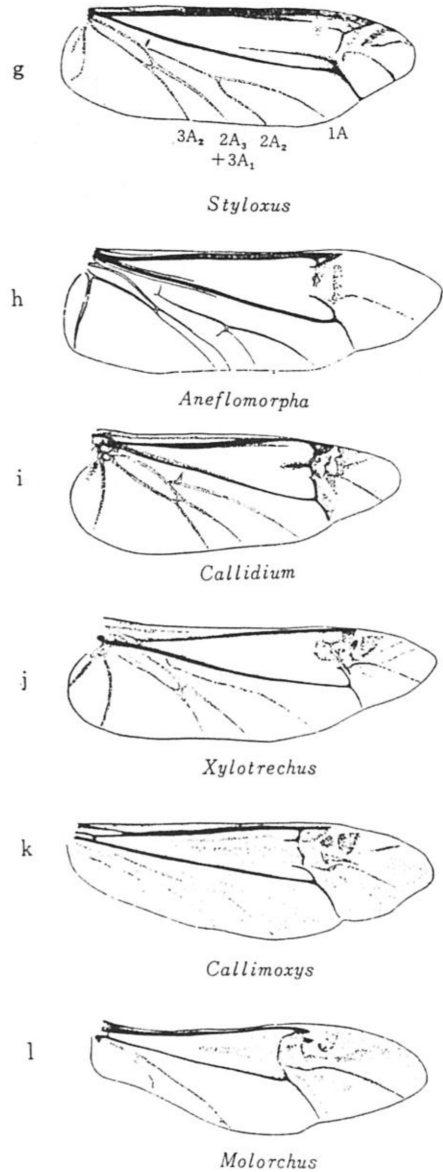
番号	属名	主な産地	現在の族
238	<i>Stenopterus</i> ILLIGER	欧州	Stenopterini ³⁾
239	<i>Callimus</i> MULSANT	欧州	Stenopterini ³⁾
240	<i>Stenorhopalus</i> BLANCHARD (<i>Platynocera</i> のシノニム)	南米	Necydalini
241	<i>Hephaestion</i> NEWMAN	南米	Necydalini
242	<i>Colobus</i> SERVILLE (nec ILLIGER) (ホノニム, <i>Nothopeus</i> PASCOE)	東洋区	Callichromini ^{b)}
243	<i>Rhathymoscelis</i> THOMSON	南米	Necydalini
244	<i>Ulochaetes</i> LECONTE	北米	Necydalini
245	<i>Necydalis</i> LINNÉ	北米	Necydalini
246	<i>Molorchus</i> FABRICIUS	北米	Molorchini
247	<i>Epania</i> PASCOE	北米、東洋	Molorchini

a) AURIVILLIUS のカタログ (1912年) では Molorchini.

b) GRESSITT & RONDON の“ラオスのカミキリ” (1970年) p. 140, Fig. 24 c 参照



第2図 ハナカミキリ亜科の後翅翅脈^{10), 41)}



第3図 カミキリ亜科の後翅翅脈¹⁰⁾

7. *Necydalis*, *Molorchus* および

Stenopterus の Tribe について

これら3属は最初はすべて同じグループに属することを疑わずひとまとめにして、現在の *Necydalini* に相当する Tribe (族) に入れられていた。

例えば J. THOMSON (1860年) では、Lepturitae(現在のハナカミキリ亜科に相当)の第9 Division *Necydalitae* (族に相当)には10属が含まれているが、これらは現在では4族に分けられている(第5表)。

1864年 SCHJÖDTE³⁴⁾が初めて

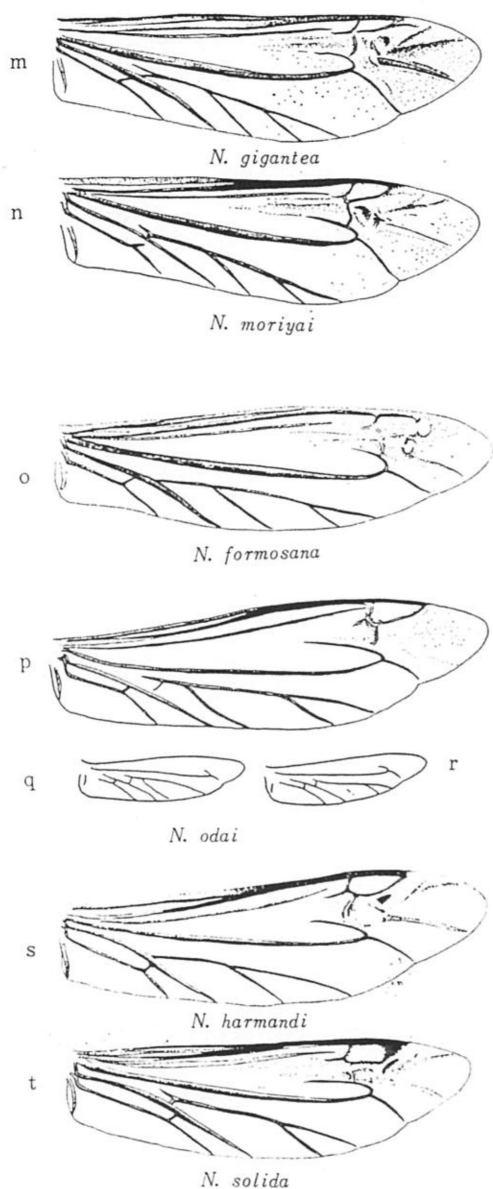
Necydalis→Lepterini (現在の亜科に相当)

Molorchus→Cerambycini (")

と異なったグループに入ることを明らかにした。そして *Stenopterus* については、*Callidini* に類似すると述べている。

次いで1866年、C.G. THOMSON が *Molorchus* FAB. と *Caenoptera* THOM. を *Cerambycidae* の *Molorchina* (族)に、*Necydalis* L. を *Lepturitae* の *Necydalina* (族)に属するという現在の形にした。

しかしその後も *Necydalis* をカミキリ亜科にする人



第4図 *Necydalis* の後翅翅脈³⁶⁾

も多く、例えば PICARD (1924年)³³⁾、松下真幸 (1933年)³⁵⁾、水戸野武夫氏 (1940年)³⁰⁾がある。

ハナカミキリ亜科とカミキリ亜科の区別点は次のごとくである。

中胸背板の発音部は中央の線で左右に分けられる。後翅翅脈は $2A_1$ と $2A_2$ が存在し、 $1A$ が $2A_{1+2}$ と接続している……………ハナカミキリ亜科 (第2図)

中胸背板の発音部は大きく、2つに分れず一体にな

る。後翅翅脈は $2A_1$ または $2A_2$ を欠くか、あるいはその両者とも欠く……………カミキリ亜科 (第3図)

ではいったい *Necydalis* はどうかと言うと、発音部は一体で左右に2分されていない。これは明らかにカミキリ亜科型。

後翅翅脈は郷遠氏の最近の発表³⁶⁾ を引用させて戴くと、*Necydalis*(*Necydalis*) の *gigantea* と *moriyai*、*N. (Eonecydalis) formosana* は $2A_1$ と $2A_2$ がありハナカミキリ亜科型 (第4図 m, n, o)。*Necydalis* (*Necydalisca*) の *harmandi* と *solida* は $2A_2$ を欠き (第4図 s, t)、カミキリ亜科型。*N. odai* に至っては個体により $2A_1$ と $2A_2$ のあるもの (第4図 p)、 $2A_1$ を欠くもの (第4図 q)、 $2A_2$ を欠くものがある (第4図 r)。(後翅翅脈の記号は FORBES³⁷⁾ のを使用)。

$2A_1$ と $2A_2$ の存在する場合でも、真のハナカミキリ亜科の属の後翅では $2A_2$ が Y 字状に $1A$ と $3A_1$ の両者に接続しており、かなり違った印象を受ける。そのため $2A_1$ と $2A_2$ があるからハナカミキリ亜科と考えるよりは、

Necydalis (*Necydalis*) → *N. odai* → *N. (Necydalisca)* → $2A_1$ を欠くカミキリ亜科 → $2A_1$ と $2A_2$ のないカミキリ亜科 → *Callimoxys* 型 → *Molorchus* 型と、一連の翅脈の消失を考え、後翅翅脈に関してはもっとも原始的なカミキリ亜科と考えた方が道筋が立つように思う。

以上述べたように、*Necydalis* は現在の分類法に従えば、カミキリ亜科に入れる方がハナカミキリ亜科に含めるよりは妥当であると言うことができるが、両亜科のいずれに入れてもしっかりいれない。これと同じような例は *Philus* など4属を含む *Philini* で、ノコギリカミキリ亜科に入れる人と、ハナカミキリ亜科の族にする人があり、結論が出なかったが、CROWSON (1955年)³⁸⁾ は *Philinae* と独立させてしまい、GRESSITT and RONDON (1970年)³⁹⁾ もこれを示持っている。

これにならない、*Necydalinae* を提案するのは、*Necydalis* 以外の *Necydalini* の属の後翅がほとんど調べられていない今日、あまりにも早計であるが、1つの可能性として考慮しても良いであろう。

文 献

- 16) WHITE, A.: Catalogue of Coleopterous Insects in the Collection of the British Museum. London, p. 179, 181, 185 (1855)
- 17) THOMSON, C.G.: Skandinaviens Coleoptera

- 1, p. 150 (1859); *ibid.* 8, p. 44 (1866)
- 18) THOMSON, J.: Essai d'une Classification de la Famille des Cérambycides, p. 162 (1860)
- 19) THOMSON, J.: Systema cerambycidarum, p. 411 (1864)
- 20) MULSANT, E.: Histoire naturelle des coléoptères de France, Longicornes, ed. 2, p. 223 (1862)
- 21) FAIRMAIRE, L.: Genera des Coléoptères d'Europe, 4(2), p. 153, 179 (1864)
- 22) CURTIS, J.: British Entomology, 2nd. ed. 1, No. 11 (1834)
- 23) WESTWOOD, J. O.: Introduction to the Modern Classification of Insects, 2, p. 40 (1840)
- 24) PASCOE, F. P.: "Characters of some new Genera of the Coleopterous Family Cerambycidae", Ann. Mag. Nat. Hist. ser. 3, 19, p. 311, note
- 25) LACORDAIRE, M. T.: Genera des coléoptères, 8, p. 477, 486 (1869)
- 26) GANGLBAUER, L.: Bestimmungs-Tabellen der europäischen Coleopteren, 7. Cerambycidae, p. 695, 720 (1882)
- 27) REITTER, E.: Fauna Germanica, IV, p. 24, 26 (1912)
- 28) AURIVILLIUS, C.: Coleopterorum Catalogus, 39. Cerambycidae: Cerambycinae, p. 259, 266 (1912)
- 29) PLAVILSTSHIKOV, N. N.: Fauna URSS, Cerambycidae 21, p. 461, 588 (1936); 22, p. 155, 652 (1940)
- 30) 水戸野武夫: 日本産鞘翅目分類目録, 94, 天牛科 p. 56, 61 (1940)
- 31) GRESSITT, J. L.: "Longicorn Beetles of China" Longicornia, 2, p. 123, 169 (1951)
- 32) PLAVILSTSHIKOV, N. N.: Определитель Жуков-Дровосеков Армении (アルメニアの天牛の同定), p. 58 (1948)
- 33) PICARD, L.-M.: "Histoire Naturelle des Longicornes de France", Encyclopédie Entomologique 2, p. 120, 123 (1924)
- 34) SCHJÖDTE: "On the Classification of Cerambyces", Naturhist. Tidsskv. ser. 3, 2, p. 530, 554 (1864)
- 35) MATSUSHITA, M.: "Beitrag zur Kenntnis des Cerambyciden des japanischen Reichs", J. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ., 34 (2), p. 222 (1933)
- 36) 郷 遺: "ヒゲジロホソコバネカミキリの観察", 昆虫と自然, 6 (4), p. 11 (1971)
- 37) FORBES, W. T. M.: "The Wing-Venation of the Coleoptera", Ann. Ent. Soc. America, 15 p. 328~352 7 pls. (1922)
- 38) CROWSON, R. A.: The Natural Classification of the Families of Coleoptera, Nathaniel Lloyd and Co., Ltd., London (1955)
- 39) GRESSITT, J. L. & RONDON, J. A.: "Cerambycides of Laos", Pacific Insects Monograph, 24, p. 24 (1970)
- 40) LINSLEY, E. G.: "The Cerambycidae of North America", Part 1, p. 66, Fig. 13, 14 (1961)
- 41) 玉貫光一: 日本動物分類 10 (14), 天牛科 1, p. 36, Fig. 6, 7 (1939)

Necydalis 属の研究史 (1) の訂正と追加

第1表 (Vol. 1, No. 1, p. 2, 番号 11, *brevicornis*)

カミキリモドキ科? (誤) → ツツシクイ科 (正)

註. FABRICIUS (1801) は Systema Eleutheratorum 1 (p. 87) で, *Lymexylon* 属に移したが, この属は *Lymexylonidae* (ツツシクイ科) の基本属である。その後 SCHENKLING (1915) は JUNK の Coleopterorum Catalogus, Par 64 (p. 3) で *Atractocerus PALIS* 属に入れている。

第3表 (*ibid.*, p. 3, 下より2行目)

MULRANT (誤) → MULSANT (正)